

2学期スタート1週間。雨・雨・雨……。ちょっとブルーな気分の人も多かったと思います。元気に子どもたちを学校に送り出していたいただきありがとうございました。1年生が雨で生活科の水遊びが延期になり、空に向かって神様に「雨をやんでくれ～」と大声でお願いしていました。かわいかったな。



# 大江の風



8月30日  
No.39

給食費提供申し込み、給食費引落口座登録の提出は9月2日(月)までです。  
お手間をおかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

## 大江小の課題について・・・

学校だよりNo.38で、全国学力学習状況調査で『難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか』という項目が低かったお話をしましたね。それは子どもたちのせいではなく、「失敗をしたらいけない」「失敗するのが怖い」という子どもに、私たちまわりの大人が育てているのではないかと思うことがあります。8月18日の熊日新聞「くまにち論壇」に、熊本大学教育学部准教授の苫野一徳氏が、『挑戦や失敗に寛容な教育を』と題して、次のように書いておられました。

公園などを訪れるたびに、私はしばしば何とも言えない悲しい気持ちに襲われる。子どもに付き添う親たちが「こら、やめなさい。危ない。だめ。汚い」と延々と我が子を叱り続ける光景にあまりにも多く出くわすからだ。見知らぬ子に近寄り、一緒に遊ぼうとする子に対しても「こら邪魔しないの!」と叱る。そしてその見知らぬ子の親に「すみません。うちの子が」と言う。我が子を自由に遊ばせている親の方が白い目で見られることさえある始末だ。その結果、親の顔色を伺いながら遊ぶ子どもがあまりにも多い気がしている。「遊び浸るから学び浸るへ」。これは幼児教育の基本である。自由になつぱり、自分の好きな遊びに熱中する。その経験が子どもたちの好奇心を育み、様々な課題に取り組む「探究」する力の土台になる。そんな遊びの過程で、こどもたちはけがをしたり、けんかをしたりすることもある。でもそうした経験を通してこそ、彼ら彼女らは体の使い方を学んだり人間関係の調整の仕方を学んでいったりするのだ。「だめ、危ない、やめなさい」そんなことばかり言われて育ったこどもたちは少し大きさに言うなら自分の人生をたくましく切り開く力を育む機会を奪われているのだ。これは親だけの問題ではない。むしろ社会全体が寛容さを失っている。子どものいたずらもけんかも、チャレンジやその結果として起こる失敗に対しても、今の世間は極めて不寛容であるように見える。その結果なのか、原因なのか、あるいはその両方でもあるのだろうが、多くの学校も子どもたちにはけがやけんかも、さらにはチャレンジも失敗もさせないように、細心の注意を払っている。少なくない学校現場が、親や同僚や管理職などの不寛容な目におびえているように見える。裏を返せば、先生もチャレンジや失敗が許されない環境におかれているのだ。(後略)

苫野氏は「学校はもっと子どもたちののびのびしたチャレンジと失敗と、そしてそこから学んでいく機会を保障する場であるべきはずだ。」「親や教師が子どもたちにかけるべき言葉は『だめ。やめなさい』以上に『思いっきりチャレンジしてごらん、失敗しても構わないから』ではないだろうか」と続けられていました。「なるほどだな」と思いました。

子どもたちの人間関係調整力は、経験によって高められていきます。学校では日々いろいろなことが起きます。いやなこともあるでしょう。気が合わないなと今は思う友達もいることでしょう。でもさけてばかり、逃げてばかりでは、人間関係調整力はつきません。社会に出ても同じです。いろいろな人がいます。だから今、学校で人間関係の調整も学んでいるのです。けんかしたっていいじゃないですか。「あの子が嫌いだ」と子どもが話したときに、大人がどういう言葉を返すかが大事なのだと思います。

大江小ではありませんが、ある学校のよくないうわさを聞きました。「クラス替えの前に、先生に子どもが嫌がっている子と一緒にクラスにしないでとお願いしたら聞いてくれるよ」。そういうことはありません。私たちは教育のプロです。様々な教育効果を考え、毎年クラス替えをしています。学年、専科、管理職や養護教諭など複数の目で最善の学級を決定していきます。仲の良いお友達と別れる悲しさ、新しい友達との出会い、いろいろな体験を通して子どもは大きく心が成長していきます。最初苦手だなと思った人でも柔軟に対応できる力を、経験によって体得していきます。



6年生が理科の時間自由研究発表会をしていました。みんながんばったね。内容もおもしろくてすばらしかったよ。

子どもは6年間で、自己中心的な感じ方・考え方から他人を思いやる、他人の気持ちを想像できるようになっていくのです。2学期はもっと子どもを知るために、理解するために、教育相談の時間を作りました。子どもに寄り添う時間を大切にして、子どもと教師との信頼関係を深くしていきたいです。また保護者との関係も同じです。どうぞもっと担任と会話してください。何でも話し合える、相談しあえる関係になってほしいなと思います。長い長い2学期、学校・家庭としっかり連携し、子どもに「生きる力＝どうにかする力」をつけさせましょう。